


三年生

# 委

ゆだねる・イ

甲骨文 

金文 

小篆 

## 漢字の意味

「委」は禾と女を組み合わせた字です。禾は穀物のことですが、ここでは穀物の形をしたかぶりものをさします。「委」はこの穀物のかぶりものをしておどりを舞う女性のすがたをあらわしています。女性が舞うすがたはきれいでありなやかであるから、「委」はその舞を女性に「まかせる」「ゆだねる」などの意味となります。

熟語 委任、委員、委託、委細、委譲 ※熟語 (二字以上の漢字の語)



三年生

# 員

イン

甲骨文 

金文 

小篆 

## 漢字の意味

「員」の金文「鼎」は「鼎」という三本足の青銅器の器をあらわしています。字の上に○があるのは口の部分がまるいことをあらわしています。「員」はその「鼎」の数を数える単位としてその字が使われたので「かず」の意味になります。また「員」は円形の青銅器なので、その全体を口で囲んで「圓」という字ができ、「まるい」という意味を表します。

熟語 かい員、いいん、けつ員、ぜん員、やく員



三年生

# 駅

エキ

小篆 驛

## 漢字の意味

「<sup>えき</sup>駅」のもとの字は「<sup>じ</sup>驛」です。<sup>えき</sup>驛に<sup>つら</sup>連なるの<sup>い</sup>意味があり、<sup>むかし</sup>昔は一本の<sup>どうろ</sup>道路を<sup>うま</sup>馬で<sup>たび</sup>旅を<sup>する</sup>と、その<sup>ところ</sup>ところ<sup>どころ</sup>に<sup>どうろ</sup>道路に<sup>つら</sup>連な<sup>った</sup>った<sup>えき</sup>駅があり、<sup>やす</sup>そこで<sup>やす</sup>休んだ<sup>り</sup>、<sup>いちや</sup>一夜を<sup>す</sup>過<sup>した</sup>り<sup>し</sup>ました。

熟語 <sup>えきちょう</sup>駅長、<sup>えきでん</sup>駅伝、<sup>えきしゃ</sup>駅舎、<sup>はいえき</sup>廃駅、<sup>むじんえき</sup>無人駅



三年生

主 あるじ・おもに・シュ

甲骨文 𠄎 𠄎 𠄎

小篆 主

## 漢字の意味

「主」は台の上に油と灯芯をおき、燈芯に火をつけた形です。古代の人は火を神聖なものと考え、その火をもつ人は氏族や家の中心となる人とされました。それで、「主」は「あるじ」の意味になりました。一家の父を主人というも同じ意味からきています。

熟語 主人、主語、主食、主力、坊主




三年生

# 追

おう・ツイ

甲骨文 

金文 

小篆 

## 漢字の意味

「追」は辵（しんにゆうへん）と自より成る字です。自は軍隊が戦場で戦いに勝つことを祈るために神にささげた肉のことです。「追」はそのような肉をささげて敵を追うことをあらわした字です。

熟語 ついか 追加、ついとつ 追突、ついげき 追撃、ついにん 追認、ついそう 追送

